150 years history in Ginza.

銀座の街とともにSAYEGUSAが歩んできた歴史を辿ってみると、
それぞれの時代を象徴するできごとが、銀座そしてSAYEGUSAから数多くはじまっています。
ギンザのサヱグサ文化事業室が収蔵する貴重な資料とともに振り返ります。

1869-2022

1843 天保14年

初代 三枝與三郎 甲州で誕生

1869 明治2年

『伊勢與』創業

江戸に上り、英国公使館でアーネストサトウに学んだのち、1869年（明治2年）築地居留地付近（現築地本願寺あたり）で唐物屋を創業。石けん、ビール、シャンパン、ブドウ酒、バター、瓶詰め、棒砂糖、帽子、靴、ランプ、石油、鉛筆などを扱った。与三郎26歳。3月にかねと結婚

1872 明治5年

銀座の大火により街の大部分が焼失

1873 明治6年

銀座煉瓦街完成

前年の大火のあと政府は不燃都市化計画を進め、お雇い外国人建築技師T・J・ウォートルスによって「銀座煉瓦街」が造られた。明治15年頃には文明開化のハイカラな街と日本になかった新事業がうまく結びつき、多くの新聞社が進出し銀座は情報発信基地となった

1874 明治7年

表通りにガス灯が灯る

銀座に初めてガス灯が設置され夜の明るい世界を演出することができるようになる

1875 明治8年

銀座三丁目煉瓦街に伊勢與移転

1882 明治15年

毛糸が伊勢與の主力に

当初は使用方法を知らず扱っていたが居留地の外国婦人によく売れていた。その後サヱグサの看板商品となる

1883 明治16年

鹿鳴館 落成

鹿鳴館ファションの流れから大きなリボンが人気商品に。リボンをあしらった婦人用帽子も人気となる

1890 明治23年

東京、横浜で電話開通

サヱグサでは、いち早く電話を引き注文、配達の便をはかる。その番号は現在も利用している

1886 明治19年

『西洋小間物及毛糸類問屋 伊勢與三枝商店』と改める

1899 明治32年

赤煉瓦造3階建ての西洋館を新築する

三枝 代三郎 二代目社長に就任

1907 明治40年

二代目 三枝代三郎 主力商品を毛糸から婦人、子ども服、帽子、手袋、日傘、ショール、化粧品、羽布団等に

当時売上の7割は卸売で日本橋三越とは早くから取引を開始。口座番号は1番であった

1914 大正3年

バーゲンデーのはじまり

日本で初めてバーゲンという言葉を使うと同時に、初夏に夏物を暮れに冬物を半値にするという、当時まだなかった画期的なサイクルを取り入れた

1923 大正12年

関東大震災 銀座焼失

1925 大正14年

『ギンザのサヱグサ』へ社名変更

志賀直哉の弟、志賀直三／志村太七による設計。当時まだ珍しかったスコットランドのチューダー様式の店舗で再出発する

昭和初期 モボ・モガの流行

関東大震災後の復興を経て、外見のスタイルばかりでなく、思考や行動までが新しい時代へと変遷していった

1927 昭和2年

卸売主体の大阪店 開設

1932 昭和7年

ウールジャージー素材にスモック刺繍をあしらった子ども服を開発

1936 昭和11年

三代目 三枝敏郎 大学を卒業し家業に入る

1939 昭和14年

第二次世界大戦 開戦

贅沢品の製造販売禁止令で銀座の商店は打撃を受ける。サヱグサも貿易業務を停止し油の濾過部品を作る製作所を営んだ。1945年の終戦後すぐに本業を仮店舗で再開する

1952 昭和27年

東京大空襲で焼失した店舗を建て直す

第二次世界大戦以後 10 年間輸入業務ができなかったため、オリジナル商品を拡充していた

当時の店舗は画廊・テーラー・パーラーを併設

「パーラーサヱグサ」ではカレーが人気
「……その喫茶部がおそらく銀座で一番旨いライスカレーを食わせているのはうれしいことだ。いまサヱグサの通りはカレーの香でプンプンする。」（昭和27年 10月『アルス・グラフ』より）

1964
昭和39年

銀座でみゆき族が流行

みゆき通りでVANやJUNの袋をかかえ、男性は短めのコットンパンツ女性はロングスカートに共布のリボンベルト、ハンカチーフを頭に巻いた。これらは東京オリンピック前の風紀取締りにより一夏限りとなった

東京オリンピック開催（10月）

渋谷、名古屋、仙台に支店設立

1966
昭和41年

銀座7丁目に店舗を移す

三世代目の店舗もチューダー様式で設計された

1967
昭和42年

銀座三丁目にサヱグサ本館ビル竣工

一階部分は住友銀行（当時）がテナントとなる

1968
昭和43年

第一回大銀座まつり

都電の廃止を機に歩車道の改修が行われ、新装した銀座通りでパレードを中心とする『明治百年記念大銀座祭』が開催された。秋のイベントとして親しまれたが、1999年に終了した

1970
昭和45年

銀座でも歩行者天国が始まる

通常の日曜日の10倍である23万人の人出があったという

1977
昭和52年

玉川髙島屋支店設立

このころからオリジナルのカジュアルラインに力を入れ、日本未発売の海外ブランドの直輸入も積極的に展開しはじめる

1980
昭和55年

Bonpoint（ボンポワン）の取扱いを開始

1975年にパリで創業した子ども服のラグジュアリーブランドBonpoint（ボンポワン）創設者マリー・フランス・コーエンと出会い、日本に初めて紹介する

1985
昭和60年

銀座3丁目ガス灯通りにガス灯4基が復活

灯りの伝統と文化を継承したいという声が高まり忠実に復元された

1987
昭和62年

明治時代の煉瓦発見

銀座煉瓦街で使用されていた当時の煉瓦を7丁目店舗脇の工事現場で、四代目三枝進が発見

1991
平成3年

三枝 進 四代目社長に就任

2001
平成13年

歩行者天国周辺で野点(のだて)を催す銀茶会がはじまる

煎茶道が一堂に会し、秋の銀座の風物詩となる

2004
平成16年

サヱグサ本館ビルとアップルストア銀座がグッドデザイン賞受賞

2003年11月よりアップルストアがテナントとなる

2005
平成17年

銀座店を『ザ・メインストア・銀座』としてリニューアルオープン

銀座本店を子どものための「スペシャリティストア」として全面リニューアルオープン『ザ・メインストア銀座』となる。同時に、大阪店は『ザ・ストア大阪』に改名

2006
平成18年

サヱグサ本館ビル

BELCA賞（ベストリフォーム部門）受賞

2007
平成19年

Caramel baby & child（キャラメル ベビー & チャイルド）を代官山に出店

1999年にサヱグサが日本に初めて紹介した、ロンドン発の子ども服のラグジュアリーブランドCaramel baby & child（現CARAMEL）との日本代理店契約を開始（※2015年に契約終了）

ゆかたで銀ぶらがはじまる

銀座の歩行者天国のイベントの一環として浴衣姿で銀座を楽しむ夏の風物詩

2011
平成23年

東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)
三枝 亮　五代目社長に就任

2012
平成24年

SAYEGUSA GREEN PROJECTを開始

「豊かな地球を子どもたちへ」をスローガンに、環境保全活動や自然教育（Green Magic）、文化教育、そしてグリーン電力を使用した店舗運営など、様々な活動を開始する

2013
平成25年

文化事業室を開設

四代目三枝進が長きに亘り研究・収集した銀座史の貴重な資料を管理し、共に歩んだ銀座への地域貢献と内外へ向けた発信を目的としている

2015
平成27年

コタキ ライス & フューチャー事業部を立ち上げる

「Green Magic」を通じて出会った長野県栄村小滝地区の方々とともに里山の未来創造を目指すべくブランドを立ち上げ、お米事業に着手する

2016
平成28年

イタリアの子ども服見本市Pitti Bimboによる「世界で最も注目する子供服専門店10店」に選出される

2017
平成29年

4月
ザ・メインストア銀座4丁目に移転リニューアル

9月
ザ・ストア大阪ヒルトンプラザB1に移転リニューアル

2018
平成30年

お米事業でグッドライフアワードを受賞

環境と社会にやさしい取り組みとして評価され、環境省主催「第6回グッドライフアワード」の環境大臣賞企業部門を受賞

2019
平成31年

150
THANKS 150TH ANNIV.
SAYEGUSA

ギンザのサヱグサ創業150周年

2022
令和4年

SAYEGUSA
&EXPERIENCE

新事業を開始

子ども服小売事業からの転換を図り、子どもたちが 様々な感動や気づきに出会える体験と環境を創造する「SAYEGUSA &EXPERIENCE」として再スタートをきる